

第2回スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)外部評価報告書の要旨 <2020年2月中間評価>

「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA(トップ型)とは、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や、先導的試行に挑戦し我が国の大学の国際化を牽引する大学など、徹底した国際化と大学改革を断行する大学を重点支援することにより、我が国の高等教育の国際競争力を強化することを目的とした文部科学省補助金で、特にタイプA(トップ型)は、世界ランキングトップ100を目指す力のある大学を支援するものである。実施期間は10年間(2014-2023年度、国の財政事情等により短くなる可能性もある)である。

本構想で本学は、「日本が、保健医療分野において、世界規模での健康レベル向上にむけて、経験/実績を踏まえて貢献し、世界とともに発展的存続を実現する」に向けて、国立大学で唯一の医療系総合大学であり、下記ミッション・教育理念のもとに医療専門職業人・生命科学/保健医療分野における研究人材の育成を行っている本学が、先陣を切り、そして中心となり、教育/研究/医療の全チャンネルを開いてその推進にあたる。

評価カテゴリー	自己評価	外部評価	外部評価のコメント<一部抜粋> (特に注意すべき点、高く評価された点)
I. 構想実現のための詳細取組の推進	A	A	省略
II. 文部科学省より指定された各大学共通の成果指標に対して本学が設定した目標の達成状況	B	B	※2019年度12月時点で、数値目標が掲げられた18項目中、以下の8項目が未達成 ①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合/②教職員に占める女性の比率/③大学間協定に基づく交流数/④外国語のみで卒業できるコースの数等/⑤混住型学生宿舎の有無 ⑥テニユアトラック制の導入/⑦事務職員の高度化への取組/⑧学生の主体的参加と大学運営への反映の促進 (1)「②教職員における女性の比率」の教員における女性の採用は、過去5年間に顕著な増加なし →すぐれた女性研究者の育成という長期的視野に立った取組によって実現していくとともに、科学、医学分野における女性の活躍の場を拡大すること期待 (2)それ以外の7項目は、包括的な大学運営の改革を必要とするもの →いずれも研究機関としての国際的な解放性や競争力を反映する数値目標であり、今後これらを達成するような恒常的努力を期待
III. 申請時に各大学が独自で設定した成果指標の目標達成状況	S	S	(1)医学科における海外経験者47%を超えていることは特筆すべき実績 →「短期海外臨床プログラム」の導入が効果的であったものと判断できるが、単発的な海外経験とならず、長期的な意識改革や継続的な海外交流への契機となるよう期待 (2)HSLPの履修者が目標値を超えていることも大きな成果 →Associateで間口を広げるとともに、Fullで卓越したレベルを維持できるようさらなる工夫を期待 (3)外国人留学生の割合の増加、グローバルヘルスリーダー養成コースの開設は大きな成果
IV. 構想実現のための体制構築	A	A	省略
V. 国際的評価の向上にむけての取組の推進	A	B	(1)自己点価の記述内容はランキングに偏りあり、第1回評価から第2回評価の間どのような「国際的評価向上に向けた取組が推進」されたのかが不明瞭 (2)THEとQSの総合ランキングでは2013年から2020年にわずかに後退、THE World Reputation Rankingにも含まれていない。国内外の小規模大学よりも低い評価である。 (3)出版物やSNSによる広報活動による認知度の向上はあくまで副次的なもの →小規模でも傑出した研究力を持つ大学として認識されるために、さらなる努力を期待
総評	—	A	【全文】 過去10年以上にわたり、東京医科歯科大学は医学教育の国際水準化に取り組む小規模医科系大学としてそのアイデンティティを明瞭に発展させてきた。本事業の今期においても、大学の教育理念に合致したグローバルヘルス人材育成の努力を精力的に行い、十分な成果をあげている。統合国際機構と統合教育機構を設置し、副学長にあたる機構長をそれぞれ置くという体制は、本事業の進展と継続性を支えるガバナンス・システムとして妥当なものと判断できる。文部科学省からの補助金規模が大きく削減される中で、自己財源を活用してグローバルヘルスリーダー養成コースを大学院に新設している点、学生の海外留学経験者数を大幅に伸ばすことができた点は特に高く評価できる。 グローバルヘルス人材の育成という目的で、高大接続教育、入試、学士課程、大学院の改革を推進する方針は一貫性があるが、事業の経年的な進展とともに、学生の追跡調査をしながら事業内容を見直していく必要がある。たとえば高大連携の英語プログラムから東京医科歯科大学に入学しHSLPに参加している学生は、37名中2名にとどまっている。今後は、高大接続教育や入試方法のさらなる改善を通して高校生の関心を高め、卓越した人材を確保する方策が有効ではないか。同様に海外留学やHSLPを経験した学生たちが、卒業後、臨床・研究のキャリア・パスを国際的な場面で追及していついっぺんかどうかもモニターする必要がある。 グローバルなヘルス・リーダを育てることは長期的プロジェクトである。今日のCOVID-19の世界的な感染拡大によって、本事業の重要性はあらためて大きく認識されている。また急速に進む高齢化も、グローバルな課題である。医療・医学に対するグローバルなアプローチの必要性は社会のあらゆる側面で認識されており、医薬や情報産業を含め民間からの資金獲得の可能性もあろう。本事業が当初計画終了時の2023年を超えて継続していくためには様々なリソースを活用した財政基盤の強化が必須である。グローバルな課題解決に貢献できるすぐれた人材と研究成果を創生していくことが、東京医科歯科大学の世界的評価を高めていくものと期待される。

○評価

S	特に優れた実績を上げている。
A	計画通り、または計画を上回って履行している。(計画の達成度が100%以上)
B	計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、計画を達成し得ると判断される。(計画の達成度が70%以上100%未満)
C	計画の履行が遅れており、計画を達成のためには業務の改善が必要である。(計画の達成度が70%未満)
F	評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す。)

○SGU 外部評価委員 8名(コロナウイルスの影響で、実地会議からメール審議に変更)

◎ 前沢 浩子委員長	獨協大学外国語学部英語学科教授
宮坂 信之委員	東京医科歯科大学名誉教授
大野 高裕委員	早稲田大学創造理工学部経営システム工学科教授
Joel T. Katz 委員	ブリガムアンドウィメンズ病院 内科研修プログラムディレクター
笠原 典之委員	東京医科歯科大学 特命教授
Han-Suk Kim 委員	ソウル大学医学部小児科教授
Suchit Poolthong 委員	チュラロンコン大学歯学部長
Elizabeth Armstrong 委員	ハーバードメイシーインスティテュートディレクター)

○SGU 中間評価スケジュール(予定)

8月24日~28日	中間評価調書等の提出期間(※切必着)
9月中旬~10月下旬	書面評価
12月中旬	面接調査
1月頃	現地調査(評価部会で必要とされたものに限り実施)
2月頃	評価結果(案)の決定
2月頃	評価結果(案)への意見申立期間(事業目的の達成は困難であると判断された場合のみ)
2月~3月頃	評価結果の決定